

図書館だより

宮城県仙台三桜高等学校
図書委員版 No.2
2018.10.26



読書の秋がやってきました。

今回は、図書委員が書店めぐりで購入した83冊の中から、おもしろそうな本11冊を紹介します。

三桜図書館の貸出は「一人3冊、一週間」です。
本を借りるだけでなく、自学自習でもご利用ください。

『身のまわりのすごい技術大百科』 涌井良幸 涌井貞美(著) KADOKAWA

私達の身のまわりにある技術の仕組みを分かりやすく説明してくれる本です。生体認証やVR等のハイテク技術から、文房具、便利グッズ等の身近な技術の仕組みまで載っています。雑学科学読本シリーズが好きな方におすすめてです。

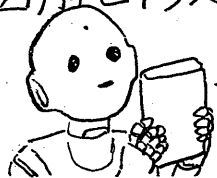
『図解でわかる』

『14歳から知っておきたいAI』

インフォビジュアル研究所・著 太田出版

AIが単独争を変える!? AIが人類を滅亡させる!?

『図解とイラストで、AIの起源からこれからを』



アゲみざわ

わかりやすくまとめた一冊です。

『はじめての日本美術史』 山本陽子(著) 山川出版社

美術史なんて、古臭くてつまらない？

そう思うのは、完成した作品だけを見てるから。

何を求めて作られたのか、何を思って作ったのか。

それが分かれば教科書で何気なく見ていた美術品たちが輝いて見えますよ!!

『美しい世界の廃墟 〜朽ちてなお美しさを纏って蘇る廃墟たち〜』

エムティエヌコーポレーション

“汚い”なんて言わせません!

世界にはたくさんの美しい廃墟があります。

マニアの人も、知らない人もこの独特の世界観を楽しむことができます!

『スヌーピー 〜ともだちって、こういうこと〜』

チャールズ・M・シュルツ(著) 谷川俊太郎=訳 朝日新聞出版

この本は「ともだちって...」という書き出しで、すべてのページが書かれています。自分の友達たちにかさねながら読むと笑顔になれる表現がたくさんあります。また、落ちこんでいる時に読むと気分が晴れ、日常が楽しく思うことができます。

『春の旅人』村山早紀(著) 立東舎

この本は「花ゲリラの夜」、「春の旅人」という二編の短編小説と「ドロップドロップ」というドロップがテーマの詩が収録されています。どのお話もあたたかく、優しい気持ちにさせてくれます。そして、読書が苦手な人でも柔らかい文章と鮮やかで繊細なイラストの世界に引き込まれるので、楽しんで読むことができます。

『鍵のかかった部屋 ~5つの密室~』新潮文庫
似鳥鶏、友井羊、彩瀬る、芦沢央、島田荘司(著)

「トリックはこれです。」あちこちで使い古されたひとつのトリックを使うことだけを決め、5人の作家がお話を書きました。ひとつの同じトリックからつくられたそれは、驚くほどそれぞれ異なったものになりました。それぞれの違い、おもしろさを楽しめると思います。

『猫町くんと猫と黒猫』楳屋京介(著) 小学館

猫町くんは猫でありながら、高校に通ういわゆる化け猫である。授業中に猫の姿でお昼寝したり、クラスの子に恋したりしても平和な日常の中で起こる物語。人間関係に悩み猫になってしまった先輩、突然あらわれた化け猫...普通の人間より短い命の猫町くんが日常の中の小さな幸せに気づかせてくれる。

『蘇る変態』星野源(著) マガジンハウス

歌手として人気のある星野源さん。しかし、「文筆家」として人気を博しています。自分自身の体験談とオリジナルの短編ストーリーが織り交ぜられた短編集です。あなたの知らない「星野源」がそこにはあります。ちなみにこの本を読み終えた私は、改めて「星野源は蘇った変態」だと思います。

『死ネ申刑事』大倉崇裕(著) 幻冬舎

無罪判決が出ると現れ、その事件の再捜査を行う「死ネ申」と口ずかされる男。その巧みにくわれない風貌と態度から確実に事件の真相に迫っていく。



『86-エイティックス-』安里アサト(著)

株式会社 KADOKAWA
この作品はライトバルとしては少し異色な作品で、ジャンルとしてはSFやアクション小説になりますが、ライトバルとしてはかなり石更派な小説です。しかし、一度言売むと最後まで続きが気になり読むことをやめられなくなる作品です。